

# 春風秋霜

3月号

平成29年3月3日  
島田市教育委員会だより  
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 人事について

年度末は異動の時期です。今年度をもって退職される28人(含再任用)の皆様には、これまでの教育への尽力に心から感謝申し上げます。

さて、今年度の異動率は、約29%となります。学校差はありますが、平年に比べやや大きな異動になりました。その要因は、島田市の教員が過員状態であったことと、退職者が多かったことによります。

「異動は研修だ」とよく言われます。中でも、市外転・行政転・校種間転は、多くの学びがあると共に、人のネットワークが大きく広がり、その後の教育活動に大きく寄与します。私自身も静岡に異動(2回)した時の人たちとは今でも交流しており、困った時に助けてもらっています。行政での経験は、正に転職した思いでしたが、その時の経験により、視点を変えて見る目や判断力を育てていただいたと思います。

留任した皆様方は、新しい仲間を迎え、これまで築き上げてきた成果を基に、新しい方々の財産を生かした組織作りと学校経営が求められます。よろしくお願いいたします。

## 2 グローバル化について

主語のない日本人の会話は、外国人にとって難解だと言われます。日本人は相手の意思を推察することに長けているため、単語だけでも会話が成立します。しかし、それでは、グローバル化には対応できません。全教育活動において、主述を大切にした発言を重視し、コミュニケーション力の育成に努めなくてはならないと思います。

1月の定例教育委員会において、北島委員から日産自動車のカルロス・ゴーン氏の言葉が紹介されました。ゴーン氏は、「グローバル化時代に大切なこととは、アイデンティティを失わずに、多様性を受け入れることだ。」と語っているそうです。

ゴーン氏の言葉のように、アイデンティティを育むことや多様性を受け入れる教育のためにも、コミュニケーション力の育成が大切だと思います。

## 3 幼稚園訪問から

2月14日(火)に島田南幼稚園を教育委員で訪問し、授業参観や情報交換を行いました。あいにく年長児は体験学習のため不在でしたが、年少児や年中児の立派な姿を見ることができました。年少児は椅子にきちんと座り、年中児は初めてのマーチングバンドの練習を行儀よく受けていました。

集中力を持続させている幼稚園児の姿を参観し、指導の素晴らしさを実感するとともに、幼稚園で育成された力を小学校が十分に生かしているのか、不安を感じました。幼稚園児が靴やロッカー内の整頓をきちんと行い、清掃もできているのに、小学校1年生ができない訳がありません。「6年生の支援が、1年生のできることをできなくさせているのかもしれない」と、教育委員の中で話題になりました。

新1年生は、様々な幼稚園や保育園から集まってきます。できることに大きな差があることは承知していますが、できることを生かすことが大切だと思います。また、幼稚園側からは、「園児の成長を細かく記載しているので、幼稚園から小学校に送付した指導要録を

生かして欲しい」とお願いされました。送付された記録から子供たちを把握することは、小学校だけでなく中学校にも求められます。校種間の連携は、あるものを生かすことから始まると思います。

#### 4 援助希求力について

最近もいじめ問題についての報道が繰り返されています。自殺や不登校という重大事案が多いからです。文部科学省は、いじめ問題が解決したと思われても、「相当の期間」の確認が必要としています。文部科学省は、この『相当の期間』を、三ヶ月程度と想定しているようです。加害者の謝罪をもって、いじめの解決にはならないということです。

いじめ問題を把握するためには、アンケートに頼る場合があります。アンケートに記載されなかったから、いじめはないと結論付けることは危険です。アンケートに書かない子や書けない子もいるからです。第4回静岡県総合教育会議において、渡部靖乃教育委員は、「子供の援助希求力の育成が大切」という発言をしています。子供自らが「困った」「助けて欲しい」と言える力を育てることが大切ということです。その裏側には、このように助けを求めることのできる環境を学校（担任）に作ることを求められています。

## 肘かけ椅子

水野 式高 スポーツ振興課長

### 『スポーツ活動から得られた財産』

2月16日（木）に平成28年度スポーツ賞の表彰式が挙行されました。スポーツ賞は、各種大会において優秀な成績を収めた小中学生に授与されるもので、今年は団体の部9団体137人、個人の部46人にその栄誉を称え表彰しました。その受賞者の中に、私が以前コーチをしていた生徒がいて、私に話しかけてくれました。話をしていると埋もれていた遠い記憶が蘇ってきました。

「水野君バスケット部だったね。小学生に教えてみない？」と、近くに住む議員さんから声をかけられたのは、昭和55年頃でした。時代は、ポートボールからバスケットボールへ移行して間もない頃、この地域に組織も無く指導者も少ない時代でした。

早起きが苦手な私でしたが、休日になると平日より1時間も早く家を出るという生活が始まり、新しい指導者にバトンを渡すまでの約20年間、あっという間に過ぎ去って行きました。

子供たちと共に学んだ日々、保護者と和やかに話し合ったり、時に激しくぶつかったりした日々は、自分にとって、かけがえの無い貴重な経験となりました。そして、今も、この活動に費やした時間が、多くの方の支えや理解のうえに成立っていたことに深く感謝をしています。

今回、声をかけてくれた彼女の成長ぶりに目を見張ると同時に、自分が20年余もの長い間、活動を続けてこられたのは、子供たちがいてくれたからです。そして、子供たちの成長を見ることができるとこそが、スポーツ活動から得られた財産だと思っています。

